

平成 25 年度 第 3 回静岡市生涯学習審議会

議事録

1. 日時 平成 26 年 2 月 26 日（水） 午後 2 時 30 分から午後 4 時 30 分まで

2. 会場 葵生涯学習センター 4 階 研修室

3. 出席者

【委員】

猿田真嗣委員、渋谷恵委員、菅野文彦委員、磯山恭子委員、弓削幸恵委員、林のぶ委員、川合百合子委員、青野優委員、中野敦子委員、日野百合子委員、吉田英一委員

【事務局】

望月生涯学習推進課長、川崎統括主幹、杉山主査、藤本主任主事

【オブザーバー】

海野教育総務課統括主幹

4. 欠席者 池川茂委員、内野芳治委員、杉井たつ子委員、飯塚哲男委員

5. 傍聴者 0 名

6. 議題 1) 新生涯学習推進大綱骨子案・現状分析等

2) 新生涯学習推進大綱骨子案・基本指針等

7. 会議内容 下記のとおり

～事務局 議案 1 号新生涯学習推進大綱骨子案・現状分析等について説明～

猿田議長

ただいま詳細が事務局から説明がありましたが、ここまですべて何かご質問がありましたらお願いいたします。

弓削委員

社会状況の話をだいぶしていただき、その中に核家族、共働きの説明がありました。

これに対して、多世代で暮らしている家族についての調査がないもののかなと思います。核家族で共働きというのとは違って、三世代で暮らせるチャンスがあればいいと思います。共働きをしても、三世代で暮らしていればサポートしてもらいながら、安心して暮らすことができると思います。

もしそういうデータがあって、静岡市においてはどうなのかというあたりがわかればいいかなと思いました。核家族で共働きが静岡市で一番多いということですよ。三世代いるから子どもがいても共働きできるという分析がないのかなと思ったんです。もしそういうものがあり、比較できるともしたら静岡の強みがでるのかなと思いました。

事務局

アンケート調査に家族構成の分析がされていて、それを見ると若干、多世代の家族構成の割合は少ないかもしれません。

猿田議長

ありがとうございます。おそらく首都圏ですと大学進学や就職をしてそのまま家族をもつ世帯が多い気がしますが、静岡の場合は、一旦大学に進学をしても、また郷里に戻って実家と比較的近いところで暮らす方が政令市の中では多いのかもしれない。

弓削委員

実際は一緒に暮らしていないけれども近くにいるから共働きが可能ということですね。

猿田議長

それもありますね。

他に、グローバル化のところでですけども、他の政令市に比べ、外国人居住者数が少数であるのは、少数であるからこそグローバル化を心掛けていかないと、その方向に向かうには難しいのではないかということでした。

この方々が本当の意味での少数者というかマイノリティになって孤立化していったらいけないということもあるようです。

わりと多くの在留の外国人居住者がいらっしゃる地域では、ひとつのコミュニティができあがり、その中で独特の文化が育まれるということがあるんでしょうけれども、静岡の場合、少数であるからこそ、まちづくりの中にグローバル化をもっと意識するというのもあるし、もう一方で外国人の方々が孤立をしないように支援をしていくという意識的なものが必要ではないのかなと思いました。

そのほか感想などを含めいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

ここで社会状況を中心とする議事は終わりとさせていただきます、議案の2号に移りたいと思います。それでは骨子案・基本指針等についてご説明をお願いします。

～事務局 議案2号 新生涯学習推進大綱骨子案・基本指針等について説明～

猿田議長

ありがとうございました。

ご説明最後にあった循環図ですが、これについては、自信を持って打ち出すという感じでしょうか。

望月課長

実はまだ、学習や学びの成果を活かしていく過程の連関性というのをマスに分けていくのは難しいという意見も課内で出ております。

「学び」というのは、学んだことの成果がいきなり現れるという訳ではありません。

学んで振り返り、また学ぶという何回か反復をして進んでいくといったことをこの表では表しきれないと感じております。しかし、その局面を一か所スライスした絵にするしかないのかなと思う反面、振り返りの途中経過が回りながらだんだん変化し、高まっていくというイメージを出すためにはこれがいいのではというようなところでこの図が出てきました。この部分の議論を深くお願いします。

猿田議長

ありがとうございます。

それでは時間が限られておりますので、委員の皆様からご発言をいただけたらと思います。私のほうで勝手に決めさせていただきますが、渋谷委員から順番にひとこと言っただく、もしくは事務局にご質問いただくといいやりとりをこれからしていきたいと思っておりますのでお願いいたします。

渋谷委員

渋谷です。よろしくお願いいたします。

一案については、段階的にそれぞれの項目についての深め方がわかるのはいいと思うんですけども、個人と社会とのつながりというのがかぶってしまっているように思います。

二案にしてみると、今度はそれぞれのカテゴリーの中のつながりというか動きが見えにくいなと少し思っております。

(ホワイトボードに図を描きながら) もっと大きな図にさせていただいて真ん中が少し空けば、真ん中に矢印を描くことが出来ます。

この矢印によって、自分のことや地域の社会のことを学んで、学んでいったら共に学び合う仲間ができて、学び合っていたら課題解決になっていって、そしたらそれが自分の生活にも跳ね返ってきて自分も豊かになったという、サイクルを表すことができます。

逆に、自分のことを学んでいったらもっとそれを活かしてみようと思って、そして社会に関わっていくというサイクルもあります。

この回りもあるし、逆回りもあるようにすればいいですね。

自分が学び始めて、それが仲間づくりにつながると感じ、もう一歩進めていくとどうできるだろうと、協働やまちづくりへの参加が見えたり。

逆に、自分が学んで実践してみたら人とつながったというようなこともあるといった、この矢印によって自分の立ち位置と方向性などが伝わるのかな、というのがひとつの考えです。

その中で、基本指針の「生きていくための総合的な力の習得」は個人の領域の進化のようになって、「絆づくり」は、個人から社会に行く進化みたいなものです。

猿田議長

二案をもとに動きをつけて、三案の要素を表現するということですね。うまく表現されていると思います。

この意見に乗せていただいても結構ですし、別のご意見をいただいてもいいです。

磯山委員

三案については、学習から実践への循環が行き来できないような構造になっているかなと思います。それを絵に表すとすごく複雑ですが、方向性がうまく示せない感じがするので、渋谷委員のご提案が完璧だったと思います。

猿田議長

賛成ということですね。

弓削委員

二案と三案をうまく足して表現できたらいいなと思いました。この時間の中では代案がすぐに出なかったのが、渋谷委員の意見をもとにしながら考えていけたらいいなと思います。

学びのスパイラルという部分が大事なので行ったり来たりもそうだし、重ねていくことで深まっていくとか、広がっていくとか、何かそのような要素を表現できる仕方がないかなと感じます。以上です。

林委員

同じようなことを考えていました。三案ですと見方によっては堂々巡りのように見えてしまうので、スパイラルに表現するような方法があればわかるかなと思います。尚且つ、上に広がったスパイラルという風に思っていました。

川合委員

三案でいくと、情報を盛り込もうと思うとわかりにくくなってしまいます。わかりやすいはずのものが結局わかりづらくなってしまいうということで、渋谷委員のお話を確かにそうだなと思いながら聞いていました。

少時的外れかもしれないですが、学校現場ですとか、また保護者のことをイメージしたときに、個人の向上というところに非常に大きな問題を感じるんです。

結局そこまで辿り着くまでが、生涯学習に参加するまでが、またはそういった気持ちになるまでというのが非常に大きな問題であると自分は感じています。

多くの方々が、生涯学習に参加できるように考えた時に、どこかでアクションを起こしていけないといけないと思います。

先程、静岡市が生涯学習に対する参加率の調査がありましたが、自分の周辺を考えたときに、または自分自身を考えたときにも、生涯学習の必要性をわかっている、それに参加する人がどれだけいるだろうかと感じます。

ただ、それを表に活かすというのはなかなか難しいところではあります。

しかし、そういうところもアタックをかけていかないと、生涯学習の広がりが見えてこないのではないかなと懸念をもっております。

吉田委員

私もこの3つのスパイラルのものがわかりやすいのではないかなと思います。

少し意見がずれているかと思いますが、教育基本法で生涯学習の理念が書かれております。今回検討しているのは、静岡市としての理念をどうしていこうかという議論だと思います。

そうすると、その前に、やはり静岡市の生涯学習に対する課題とか、これから伸ばしていくって日本一の生涯学習の市にしていくという目標を整理し、そこから何をしていけばいいのかというようなことを考える、先程のPDCAでいけばチェックのところは重要だと思います。

静岡市の生涯学習に対するチェック、これは先程のアンケートが貴重な資料だと思います。それを踏まえて静岡市として特徴のある理念をこれから展開していく必要があるのではないかなと思います。

先程のアンケートの中で、生涯学習をしなかった理由は何ですかというのがあります。回答として、仕事が忙しくて時間がないというのが約 40%もあります。それから時間帯が希望に合わないというのが 25%、両方合わせると、複数回答ですけれども 60%を超えるような人が、仕事が忙しい、時間がないということで、生涯学習ができない。

私もかつてサラリーマンでしたので、日頃の経験として非常にあるんですが、就業中は仕事最優先ですので、仕事余暇というのはなかなか見つけにくい中で、ある日突然定年を迎えたんです。

定年を迎えて最初、これから 20 年も自分の人生があるから、やはり自分なりの学習を続けていかなければいけないと思った時に、今まで仕事オンリーできた人が、社会の中に入って、自分の学習を探すというのはなかなか大変なことなんです。

簡単に言うと、生涯学習センターの講座やカルチャーセンターなどありますが、実際そこに入って、今まで仕事人間だった自分が、そういうグループの中に入って学習を続けていけるかとなると非常に難しい問題です。

そういう問題というのは、むしろ私の経験からいけば企業の経営者にあるんじゃないかと思います。経営者がやはり生涯学習に対する考え方を持っていないと、なかなかそこに働く者がそれを時間を見つけやっというのは難しいのではないかなと思います。

そういう点では、経営者に対する生涯学習の理念の啓蒙活動が将来は非常に大事なことになる気がすると思います。

日野委員

わかりやすさというところからいくと図式化というのが一番入っていきやすいのかなと思います。二案の要素を入れながらの図式化という方向性でいけたらいいのではないかなと思います。

中野委員

お願いします。私も、文字だけよりもそこにカットがあったり色があったりするだけですごくわかりやすくなると思います。

先程の資料に出てきた、一人（個人）が階段をのぼっていて、二人がつながって、さらにつながっていくイメージ図がすごくいいなと思ったので、そういうものを入れたいです。

このマトリックス表は、上から下に下がっていつている表現になりますよね。深まるという意味ではいいと思うんですけど、スパイラルが上に広がるということは、広がっていく向上するというイメージだと思うので、マトリックス表を逆転して、下から上へ広がる表現に変えればいいと思います。

もうひとつ、先程、生涯学習の定義というのがあったのですが、私も今までは生涯学習というと、どこかに講座を受けに行くとか、習いに行くとかばかりだと思っていました。

第 1 回目の会議に出させてもらったとき、そうではなく、一人でもいい、家でもやってもいいということがわかりました。「わかった」とか、「やってよかった」とか、そういう感覚があったら全部学びでいいんだなって思ったんですね。

そういう意識が、もしかしたら世の中の人たちもないのかもしれないです。

人って学んだって思うことが喜びだと思うんですよね。それが、次も学びたいという意欲になっていくと思うので、それも学び、それも全部生涯学習なんだよということをもっとお知らせしていけばいいのかなと思います。

青野委員

昨日同級会がありまして、話題になったことなのですが、西に住んでいる人はデパートで買い物をする時に値引きをお願いするが、静岡人はそんなことは恥ずかしくて言えないという話がありました。

それはある意味静岡人の特徴かなと思います。

先程も静岡らしさを盛り込んだり、そういうものを打ち出したいという話が出ました。

他の都市とは違う部分があって当たり前だろうと思うし、生涯学習に対して、静岡人はどのような考え方を持っているのかを知りたいです。

それによっては、生涯学習を行ったかどうかのアンケート結果は変わってきますよね。だからその辺をきちっと踏まえた上で、特色づけることをしないとまずいかなと思いました。

第2回審議会のときに、ワールドカフェ形式でいろんな話をして、それが今日とてもうまくまとめてくれてあったと思います。

その一つが、個人の中で人と人がつながって、それが大きな場になってということで、私も前回だいぶ話をしたのですが、自分がいろいろなところに参加してみると、静岡の人ってすごいなど、こんなにみんな勉強してるんだという思いがあるんです。

だから先程の調査結果を見て、静岡に人ってそんなに生涯学習活動をしている割合が低いのかと驚きもあったりして、その辺は自分なりにもう少し意識をきちっと持たないと、と思います。

そういう意味で前回は活かしてもらって、広がりや深まりでいくと、先程、渋谷先生がおっしゃってくれたように二案を改善していっていいかなあと思いました。

三案は矢印があって動きがあるようできて、ある断面だけを捉えたという感じもするので、今のところ二案がいいのではないかなと思いました。以上です。

菅野委員

考えていましたのは、二案と三案の併記かなと。

そこまでは考えてきたのですが、それを合体させるという発想は思い至りませんでした。やっぱり一つにしたほうがすっきりすると思います。

それに賛成するという前提で、二案の弱点と思えることは、一案の項目を減らしたので、横軸が個人と社会だけになっているところです。

横軸が「個人」と、「社会的・公共的」な意義と、一部学習形態（一人で学ぶか共同で学ぶかということ）が混ざっているのかなと感じました。

でも、循環というような意味では、個人と社会との間の矢印というのも入れて、流れを表現することはできるかなと思いました。

あとは図に値する文章などで、縦軸のニュアンス、横軸のニュアンスは補っていただけるといいかなと思いました。

それから、最後のスライドに見えたものがスローガンとして素敵だなと思いました。

事務局

このスライドですね。「週に一度は学びの日」のようなスローガンをどこかで入れたいなと思っています。

菅野委員長

ありがとうございます。そんな風に、「たいそうなことをやらないと生涯学習ではないんだ」という考え方をほぐしていくような方向性は必要だなと思います。

ですが、これもせつかなので、若干の弱点を指摘しておく、週に1日だとしたら、残りの6日間やっていることと、1日でやっていることが切れているようなニュアンスにも聞こえてしまい兼ねません。

学校に行っている子どもは相当数いるわけですし、労働、職場、地域の中でということを見ると、この日は学びの日、それ以外の日は違うという切り分けではなくうまくできたらいいなど。

少しずつ暮らし全般を学びとして身に付けていくような、ちょっとボランティアとか、ちょこっと〇〇といった言葉があるように、そんなニュアンスも工夫する余地があればという風に思います。

猿田議長

ありがとうございます。今のお話がありましたが、二案をベースに三案のようなダイナミックな構造を示せるようにする。それがいいですね。

元々の意図はおそらく施策をどう構造化するかということで、出発したと思うのですが、それをある程度シンプルに分かりやすくまとめて、その中から動きもつけていくというのが結論になりそうだなと思います。

よりよくするアイデアをまた残りの時間にいただけたらと思います。

二案を見ますと、個人の部分が黄色になっていて、混ざったところが黄緑色になっていますね。この黄緑色の部分が一案でいうところのつながりのところなのかなと。

個人から出発するので、下にいくと活用とか実践ということですね。実践するというのはおそらく一人のなかで完結する話ではないので、やはり何かとはつながっていくと考えます。

それから、右側にも黄緑色の部分がありますがこれは社会とのつながりで、学びも他の人と一緒にやればもっと楽しいよというのが右上の黄緑色の部分だと思います。

だから下に行く個人から活用を考えるという矢印を学習の実践化とし、個人から社会への矢印を学習の協働化と名前をつけて、それをひとつの原動力として生涯学習の施策を立てていくのもいいかもしれません。

それから、最終的には右下の「協働の場づくり」にあたるところが目標になると思いますので、そこにつなげていくという意味からいえば、右回りのプロセスもあれば左周りのプロセスもあって、それがまた戻っていくというような示し方もできるかなと思います。

基本的には動きをつけるというのは、そういうことではないかなと思います。

その全体を支えるのがこの基盤作りということで、これは複数の方がお話になっていて、やっぱり企業経営者にももっと理解してもらわなければいけないと。

それから時間がない、余裕がないというのであればそのための条件を作らなければいけないということで、ここにも施策を打てる部分だろうと思っています。

もうひとつは個人の学習の部分はいきなりはじまるわけではなくて、学習者予備軍、まったく無関心層が半分いらっしゃるかもしれないので、その人たちを週に一度は学びの日みたいなことで一緒にやりましょうよというメッセージ、それを引き入れる施策、プロセスもあるのかなと。

それは基盤のところにもアクセスと書いてあるので、誰もがアクセスしやすく気軽に学べる環境、まず個人の学習の部分を増やしていくという施策、個人的な活用を促す施策、学習の協働化を図る施策、協働の場づくり、その施策の体系ということから言えば、この1枚で割と多くのことが書いているのかなと思いました。

あと、右上がりのイメージということだったので、この図を原点を左下にして、個人が最終的に協働的な活用、まちづくり、実践へといくように、配置をひっくり返してもいいかなとったりしています。

あと、大事なお話でしたが、静岡らしさというところで、なんらかの味付けがいらいますかね。今のままではどこの街のものかわからないので、では静岡市は現状を受けてどういところに力点を置くのかということだと思います。

基本的な骨組みはまた別のもので示す必要があるかなといった感じで、まとめさせていただきました。

では、これを受けて事務局から少しまた足りない部分があればご意見いただければと思います。

望月課長

(ホワイトボードを使いながら) ひとつ気になっているのが、循環の矢印の表現の仕方です。

例えば、学びをしている者の到達点はある意味まちづくりだというような観点からいくと、ここ(協働の場づくり)にくるのかなと思います。

しかし、学習自体は繰り返すというイメージで描くとなれば360°回った矢印のようになるのかなと思います。

それと、三次元の表現は、例えば、「個人があって仲間があって社会があって…」といったシチュエーションを上手に乗せていくと、スパイラルアップ感が非常に出ると思うのですが、絵で示すには、なかなか難しいなと感じていて、何か良いアイデアがあればご意見いただきたいと思います。

あと、一人が二人になって、集団が集団とくっついてのようなイメージで、絵を入れたほうがいいのかというご意見もいただきました。

また、この未学習層といいますかアンケートの70%近い未学習者である静岡市の人たちをここ(個人の学習)に呼び込むんだという表現を何かの格好で表に入れなければいけないと思います。

あとは個人、社会、知る・学ぶ、参加・実践するという、このそれぞれのマトリックスのこの交点を示す言葉はとりあえずこのまま置いておいて、最初に渋谷先生が言ってくださったムーブメントとしてのつながる社会、ムーブメントをこの上に乗せるイメージでよろしいでしょうか。(ホワイトボードに) 絵を描きながら思ったのは、その表現の仕方の中で、できればここでご意見としてお伺いしておけば、形にしやすいかと思います。

渋谷委員

方向性としては上がるということと、絵を入れるというそれだけでずいぶん違うかなと思います。

循環については、学びの最終的な目標が社会のためということではなくて、やっぱりそれが個人に反映されるというところまでほしいなと思います。

社会に貢献するために学んでいるだけではないので、どこかで戻る流れというか、自分も豊かになる、家族も豊かになる、そういうところがあればと思います。

それから、このイメージを元に、先程挙げいただいた静岡市の状況を見ると何が問題ということが出てくるのかなと思いますので、それを対応させて見せていただくと意味が伝わりやすいのかなと思うのがもう一点。

まだ無関心層が多いということなどを書いていただくと分かりやすいのかなと思います。

それから先程中野委員がおっしゃられたように、やっているんだけど生涯学習だと思っていないというのは非常にあると思います。

個人の中で学習が完結しているとか、例えば家を建てるにしてもみなさんすごく勉強して建てる訳で、それはそれでひとつ学びではあると思うんですけども、何かそれがつながらないというところがまたひとつの課題かもしれません。すごく個人差が大きい点なのかなと。

いろいろ学ぶ手段を持って個人でも学んでいる人と、そうでない人がいる中で、情報の集め方だったり、探し方だったり、意欲だったり、その個人差というのをどう書いていくのかというのが一つ。

それから静岡らしさというのがやはり、キャッチフレーズとかスローガンという部分でほしいなと思ったのですが、思いつかなかったのでバトンタッチしたいと思います。

猿田議長

そのへんのアイデアをどうでしょうか。事務局は、他によろしいですか？

事務局

そうですね、シンプルなのがいちばん伝わりやすいなと思っているので、そういった意味では二案がいちばんシンプルで、渋谷委員の真ん中に動きを付けるという案は賛成です。

また、アンケート分析等をしていて静岡らしさというか、静岡の生涯学習が抱えているものはなにかを考えていました。

一つ、生涯学習を活かせていないのはなぜですかという問いに対して、活かせるレベルではないと答える人が多かったり、静岡の人は非常に謙虚なのかなと。生涯学習と呼べるほどのことはやっていませんといった謙虚な姿勢があるのかなというのは感じます。

それに対して、それって生涯学習だよという敷居を下げるような何か啓蒙活動というかキャンペーンのようなものは入りたいと感じていて、それが先程の、週に一度は学びの日ではないですけども、そういったことで生涯学習の敷居を下げるようなことも考える必要があります。

それで、スローガンを例えば静岡弁で言ってみたり、静岡らしさのようものを入れていくのもよいのかなと気がします。

それと、生涯学習をやっていない層に対し、学習というのは楽しいし、やらないと損だよといったような、楽しいものということで枠を広げていくということは柱としても入れても良いのかなと皆さんの話を聞いていて思いました。

中野委員

静岡市の生涯学習の理念の、「いつでもどこでも誰でも学び」という、これがすごく素敵でいいなと思いました。

そういうのをスローガンにして、いつでもどこでも学んでるとか、菅野先生がおっしゃったような、いつでもどこでもちょこっと学びとか、そういったもので楽しい感じを出してはどうでしょうか。

日野委員

先程お話がでたんですが、スローガンに暮らし全体での学びという話があったんですけども、私、学び学びというとやっぱりハードルが高すぎるイメージがあって。

でもその暮らしの全体の学びというのは、いわゆる子ども会であったり町内会の活動であったり、すべてこれに入ると思うんですね。それが伝わるような表現というのがとても必要な感じがします。

吉田委員

個人、社会、静岡市がどういったところに力をいれていったらいいのか、具体的なものになるとこの次の第二段階だという風に思うんですね。ですから、そういうものを表したらどうかと思います。それを推進していく行政ですかね。三位一体のそういう雰囲気があると。

猿田議長

静岡市の施策は、この図を前提にするとどのあたりに課題を持っていかれると、全体ということでしょうか。

望月課長

基本、全体かなと思います。

楽しい趣味の、遊びの学習もいいのですが、そればかりになってしまうことが学習活動の中で弱い部分だと思います。

静岡市の核家族化であったりとか、一人暮らしであったりとか、隣の人を知らない等の問題を考えると、つながりのところが課題を持っているだろうし、最近、自治会町内会の会長をやらないであるとか、いろんな社会課題があるんだけど先頭に立って動く人がいないとか、みんなで一緒になって協力して動く人がいないというような問題を考えると、やっぱりまちづくりへの参加にも課題があるのかなと。

しかし、まず動くためには、生涯学習をやり始めるというスタートレベルの重要さがあると思います。

ですから、考えたり勉強したりしていく人たち人との付き合いを大切する人たちがどんどん増えていくという意味では、ここ（生涯学習への参加の入口）が一番大事だと思っています。

その強弱のつけ方は、これからの分析をしていく中で、はっきりしてくると思います。

猿田議長

今後8年ないし、前半4年でどこまで何をするのかという話が出てくると思います。

そのときに再度、点検していただいて、ちょっと弱いとかここはあまりにも強引だとか、調整する必要があると思います。ではだいたい予定の時間になってきましたけれどもよいでしょうか？

林委員

最後に、私は、いろいろなグループ、団体の活動、講演会などかなりの場所に出ていくことがあります。顔ぶれはいつも一緒なんです。

だから、学習の楽しさをどうやって個人個人に知らしめるのが大事かなと思います。

やっていることが生涯学習なんだよっていうのを知らせると同時に、やっぱり時には前に出て学ぶことの楽しさを知らせるのが大事なのではないかなと。

出てこないと自分のやっていることを気にすることができないし、そういうことはいろんな場に行って思います。

ですから、先程の川合委員さんのおっしゃることがすごくよく分かります。そこが一番問題で、その一步ができればそれでもう始まると思うんです。

猿田議長

はい、ありがとうございます。個人の学びの入り口で一番大事なのはきっかけだと思いますけれども、入り口はそれだけではないのかもしれないということもありますね。

4つのパターンの中でどこから入ってもいいというのものもあるかもしれないし、そのあたり学習と活用実践のところの見え方も考えたいですね。

そういう点ではいろんなところが入り口になりうるかなと思います。楽しさとかが伝わるような見せ方は大事だなと思います。ありがとうございます。

青野委員

スローガンのことですが、今日の本題ではないのかもしれませんが、週に一度は学びの日、これは生涯学習ってどう考えればいいのかというところに戻ってしまう気がするんです。ですので、スローガンを作るというのはとてもいいことだと思うのですが、この内容についてはもう少し検討してほしいなと思います。

猿田議長

何かいいアイデアがあれば。それではもう10分前になりますので、どうでしょうか。

最後に、4つのそれぞれの領域にも施策の目は向くんだと思うんですけれども、まずその動かし方ですね。個人の学びがよいかたちをできるような施策をどう使っていくのか。もうひとつ施策を支えるというところが重要だと思います。

それでは活発にご意見いただいてありがとうございました。

事務局の方にはぜひ参考にしていただいて、より良い審議につなげていただければと思います。それでは本日はご協力ありがとうございました。